

審査の結果の要旨

氏名 安 婷婷

我が国への留学生数は増加している。その中でカルチャーショック等の問題に直面する留学生の精神的健康度は低いのに関わらず、メンタルヘルスサポートは貧弱である。また留学生の 6 割以上を占める東アジアの留学生は支援を求めないという傾向が強い。そこで、本論文では、特に精神的健康度が低いとされる日本語学校の中国人留学生を対象とし、どのように支援を提供するのが有効であるのかを検討することを目的とした。論文は、援助の求め易さの観点から ICT を活用した支援システムの重要性を示す第 1 部、ICT 活用の支援システムの適用可能性を検討する第 2 部、中国人留学生の援助要請の特徴を検討する第 3 部、サポートニーズの実態を明らかにする第 4 部、ICT を活用したメンタルヘルスシステムを開発・実践し、効果を検討する第 5 部、研究成果を総括する第 6 部から構成される。

第 1 部では 1 章で留学生のメンタルヘルスを、2 章で ICT 活用の心理支援をレビューし、3 章で「どのような ICT 活用の支援が有効か」とのリサーチクエスチョンを明らかにした。

第 2 部 4 章では、インターネット版認知行動療法を 400 名に導入した実践研究の結果、利用率が 6%であったことを示した。5 章では、その参加者 13 名の意思決定過程を質的に分析し、中国人留学生特有の援助要請行動とニーズを明確化する必要性を示した。

第 3 部では 6 章でメンタルヘルスの実態、問題認識、援助要請の必要性を調査(N=119)した結果、68%がうつ状態であるにも関わらず問題意識がなく援助を求めない傾向が強いことが明らかになった。また 7 章では援助要請の意思決定過程を調査(N=284)した結果、要請行動を高めるためには家族サポートや症状に関する心理教育の充実の重要性が示された。

第 4 部 8 章では、238 名の学生を有する日本語学校において学生相談室を立ち上げ、利用に関するアンケート（回答率=51%）を実施した結果、来談抵抗が強い学生であってもインターネットならば利用傾向が高いことが示され、情報とサポートが学生に届くインターネットを介してのサポートの必要性が明らかとなった。9 章では 2 年間の相談 310 件の内容を質的に分析した結果、進路修学だけでなく、言語能力不足による困難、留学目的と日本語学校の機能のずれ、異文化適応など問題が多岐にわたることが明らかとなり、各ニーズに合わせたサポートの提供の必要性も示された。10 章では 19 名にフォーカスグループ面接を行い、深刻化・複雑化を防ぐために初期段階からの支援の重要性が明らかとなった。

第 5 部 11 章では、それまでの研究成果を踏まえて中国留学生用のメンタルヘルス支援 Website「留学心」を開発し、当該日本語学校の学生に提供し、12 章でその影響と効果を評価した。学生の 43.3%の 142 名が閲覧し、利用あり群の方が利用無し群より援助要請が強いことが示された。また利用あり群の 44.2%が閲覧をきっかけに実際に来談していた。

本研究は、留学生のメンタルヘルスの実態と援助要請ニーズに関する調査結果に基づき、ICT を活用した心理支援システムを開発し、その有効性を確認した点で特に意義が認められる。よって、本論文は、博士（教育学）の学位を授与するに相応しいものと判断された。